

約25万針で描かれた、一枚の風景。

布と糸で描く “Threadscape”

「林サヨコ創作キルトの世界展」 約25年にわたる大型タペストリー20作品を初めて一堂に
2026年10月22日（木）～25日（日） | 京都文化博物館 別館ホール | 入場無料



《伏見縫酒蔵風景》 142×295cm / 2013-2015年 / 制作期間2年

一般社団法人ラ・ネージュは、2026年10月22日（木）から25日（日）まで、京都文化博物館 別館ホールにて、京都市伏見区在住の手芸家・風景キルトアーティスト、林サヨコの「林サヨコ創作キルトの世界展」を開催します。町家、京都の寺院や風景、伏見の酒蔵、物語の世界、インド、そして心象風景。日本の古布をはじめ、絹、木綿、麻など多様な布を一片ずつ選び、切り、縫い合わせて生まれる独自の風景表現を、Thread（糸）と Landscape（風景）を重ねた

“Threadscape”という言葉とともに紹介します。1998年に制作を始めた第1作《町家と蔵》から最終作《伏見稲荷大社》まで、約25年にわたる大型タペストリー20作品が初めて一堂に並びます。

一人で縫い上げた約3メートルの風景 - 《伏見縫酒蔵風景》、完成まで約25万針

高さ142cm、幅295cmの《伏見縫酒蔵風景》を、林は2年をかけ、すべて一人で制作しました。使用布は約180種、瓦の型紙1,256枚、木々の葉約440枚、菜の花の黄色い粒は約40,000粒。今回、制作記録をもとに改めて算出したところ、布を縫い合わせて「絵」の状態にするまでで88,967針。その後のキルティング、額縁仕上げ、葉などの刺繍を含めると、完成までの総針数は約250,000針に及ぶと推計されます。

使用布	瓦の型紙	菜の花	総針数
約180種	1,256枚	約40,000粒	約250,000針（推計）

林は、大作であっても縫製を人に委ねません。「一針一針が自己表現」。一つひとつの針目の積み重ねが、やがて一枚の風景となります。

実物大製図から型紙へ - 「風景ができるまで」を公開

《伏見縫酒蔵風景》では、完成作品とともに実物大製図や型紙などの制作資料を展示します。風景を平面的な構図へ置き換え、実物大の製図をつくり、型紙を起こし、色や質感に合う布を選び、一片ずつ縫い合わせる。完成作品だけでは知ることのできない、一枚の“Threadscape”が生まれるまでをご覧ください。

町家から京都、伏見、インドへ。そして創作25周年の区切りは故郷の風景を。

林の大型タペストリー制作は、1998年に制作を始め、翌年発表した《町家と蔵》から始まりました。町家を出発点に、《南禅寺 水路閣》《清水寺》など京都の風景、伏見の酒蔵、宮沢賢治や新美南吉の物語世界、さらに《タージマハル》《ガンジス河ガート》へと題材を広げ、心象風景にも取り組みました。その創作の25周年の区切りに選んだ題材が《伏見稲荷大社》(255×171cm/制作期間2年)です。約25年にわたる20作品をたどり、一人の作家が独自の「布で風景を描く」方法を築いた軌跡を紹介します。

主催者より | 既存の評価軸では拾い切れていない表現を、京都から世界へ。

ラ・ネージュでは、伝統工芸や現代美術など、すでに評価や市場が確立された分野とは少し異なる場所にあり、まだ広く知られてはいないものの、日本の文化や素材、美意識を背景に、独自の世界を生み出している作家を国内外へ紹介していきたいと考えています。

林サヨコさんは、その第一弾としてぜひ紹介したいと思った作家です。前述したように、1人で全てを制作していることの他、単に日本の古布を使っているというだけでなく、多くの人の思い出の布を託されそれが織り込まれていることも作品の大きな力となっていると思います。

今回、約25年にわたる大型作品を初めて一堂に展示し、制作の過程も紹介することで、既存のカテゴリーだけでは捉えきれない林サヨコさんの表現を、まず京都で多くの方に知っていただき、そして世界へ紹介していく一歩にしたいと思っています。

一般社団法人ラ・ネージュ 代表理事 四方 有紀

開催概要

会期	2026年10月22日(木)～25日(日)
時間	10/22 10:00～19:00 10/23・24・25 10:00～17:00
会場	京都文化博物館 別館ホール
入場料	無料
主催	一般社団法人ラ・ネージュ

作品に囲まれた空間で、二夜の音楽公演

10月23日(金) 18:00～19:00 瀬川泰代 | ピアノ - 左手のピアノ

17歳で右手に局所性ジストニアを発症した後、左手のピアニストとして演奏活動を続け、海外でも演奏を重ね、高い評価を受けてきた瀬川泰代が出演。

10月24日(土) 18:00～19:00 溝淵仁啓 | ギター 各回定員50名/予約制/3,500円

林サヨコ プロフィール

1965年生まれ、京都市伏見区在住。手芸家・風景キルトアーティスト。上田安子服飾専門学校ファッションクリエイター学科卒。幼少の頃より手芸家を志し、アメリカンパッチワークとは一線を画す製図と縫製技術による表現方法を独学で考案。1998年に第1作《町家と蔵》を制作、1999年発表。自らの作風を「町家キルト」と名付け、2000年より生家の町家を「町家キルト工房」として創作活動を開始。特定の手芸団体に属することなく作品を発表し続けている。2000年 第9回パッチワークキルト公募展・團伊玖磨賞、2002年 第1回京都デザインビエンナーレ2002入選、2005年 第30回記念日本手工芸美術展覧会・毎日新聞社賞。2013年スペイン「FESTIVAL INTERNACIONAL de PATCHWORK」出展。

報道関係者の皆様へ

本展の取材、林サヨコへのインタビュー、会場撮影等については下記までお問い合わせください。《伏見縫酒蔵風景》をはじめとする報道掲載用作品画像の提供も可能です。

一般社団法人ラ・ネージュ 代表理事 四方 有紀

TEL: 090-8141-6350 E-mail: ngialaneige@gmail.com

展覧会: <https://yukilaneige.jp/sayokoquilt2026/>

一般社団法人ラ・ネージュ: <https://yukilaneige.jp/ippanshadanhoujin/>

QRコード: 展覧会詳細・作品紹介

